

2024年1月、皇居での「講書始の儀」にて
天皇皇后両陛下にご進講を行われた
金水 敏先生による講演会

日本語のジェンダーと近代

日時：2025年1月20日（月）
16:30～18:00

場所：武庫川女子大学 中央図書館 2F
グローバルスタジオ

講師：大阪大学名誉教授 金水 敏 先生



金水 敏（きんすい・さとし）：1956年大阪生まれ。東京大学大学院修了。博士（文学）。神戸大学文学部助教授、大阪大学大学院文学研究科教授等を経て、現在、放送大学大阪学習センター所長。大阪大学名誉教授。日本学士院会員。文化功労者（2023）。専門は日本語文法史および役割語の研究。2006年、『日本語存在表現の歴史』（ひつじ書房）で新村出賞受賞。他の著書に『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』（岩波書店、2003/2023）、『コレモ日本語アルカ？ 異人のことばが生まれるとき』（岩波書店、2014/2023）、『〈役割語〉小辞典』（編著、研究社、2014）、『よくわかる日本語学』（編著、ミネルヴァ書房、2024）など。

みなさんは、人と話している時、自分のことをどう言いますか？ わたし？ あたし？ うち？ それとも、自分の名前や愛称で自分自身を指し示したりしますか？ 日本語にはなぜたくさんの自称詞があるのでしょうか。また、「ぼく」や「おれ」は男性はよく使いますが、女性で使う人は少ないですね。自称詞以外にも、たとえば男性教員は学生・生徒に「がんばれよ」と言いますが、女性教員なら「がんばれよ」は使いにくいかもしれません。このような男女の言葉遣いの違いは、なぜあるのでしょうか。またいつからそうなったのでしょうか。英語や中国語や韓国語などと比べてみてどうなのでしょう。このような問題について、日本語の歴史にそって考えてみたいと思います。キーワードは「標準語」と「役割語」です。